

## 令和3年度 国民健康保険特別会計予算編成のポイント

## ① 国民健康保険被保険者数の減少

少子高齢化の影響により、国民健康保険の被保険者数が年々減少しています。

被保険者数の推移

単位：人

平成30年度	令和元年度	令和2年度（9月末）	令和3年度見込
12,878	12,546	12,338	12,303

## ② 保険料収入の減少

新型コロナウイルス感染症の影響により、事業所得の減少及び失業の増加等に伴い個人所得の減少が予測されます。そのため、令和3年度においては、保険料収入の減少を見込んでいます。

## ③ 税制改正の影響

税制改正により、基礎控除額が10万円引き上げられ、給与所得控除額及び公的年金等控除額が各10万円引き下げられました。この税制改正に対応するため、システムを改修する必要があり、そのための費用を計上しています。

## ④ 脳ドック補助事業の拡大

令和元年度から実施している脳ドック補助事業について、山陽小野田市民病院の協力により、定員を昨年までの50人から90人に拡大しています。

## ⑤ 保険料率

新型コロナウイルス感染症の影響による保険料収入の減少は懸念されますが、歳出の減少及び基金からの補填により財政運営は可能ですので、保険料の引き上げは要しないと考えます。しかしながら、基金の残額が年々減少している現状においては、引き下げも困難と考えますので、令和3年度においても据え置きとしたい考えです。

区分	令和2年度			令和3年度		
	所得割(%)	均等割(円)	平等割(円)	所得割(%)	均等割(円)	平等割(円)
医療分	8.5	24,000	21,900	8.5	24,000	21,900
後期分	2.5	6,900	6,300	2.5	6,900	6,300
介護分	2.0	6,300	4,200	2.0	6,300	4,200

令和3年度山陽小野田市国民健康保険特別会計予算(案)概要

歳入

単位:千円

款	令和2年度 当初予算 ①	令和3年度 予算案 ②	② - ①	対前年度比 (%)
1 国民健康保険料	1,061,274	979,135	▲82,139	92.26%
2 国民健康保険税	30	20	▲10	66.67%
3 使用料及び手数料	610	610	0	100.00%
4 国庫支出金	5,842	1	▲5,841	0.02%
5 県支出金	5,614,942	5,639,186	24,244	100.43%
6 財産収入	11	110	99	1000.00%
7 繰入金	769,418	750,144	▲19,274	97.49%
8 繰越金	10	10	0	100.00%
9 諸収入	12,473	16,473	4,000	132.07%
合計	7,464,610	7,385,689	▲78,921	

皆様からの保険料収入です。新型コロナウイルス感染症の影響により、減少を予測しています。

市町合併前の保険税です。合併前の旧山陽町分が残っているのみとなっており、年々減少します。

督促手数料などの収入です。

国から貰う交付金等です。オンライン資格確認に伴うシステム改修の終了により減額しています。

県から貰う交付金等です。主に、医療機関に支払う保険給付費として支出します。高額療養費の増により増額しています。

銀行の預金利息等です。基金の一部を定期預金にしたことにより、増額しています。

一般会計及び基金からの繰入金です。歳出の減少により、減額しています。

前年度からの繰越金です。予算時は、額が不明なので、枠として計上しています。

国や県からの交付金の精算金等です。

歳出

単位:千円

款	令和2年度 当初予算 ①	令和3年度 予算案 ②	② - ①	対前年度比 (%)
1 総務費	126,150	128,325	2,175	101.72%
2 保険給付費	5,533,911	5,550,631	16,720	100.30%
3 国民健康保険 事業費納付金	1,701,954	1,599,756	▲102,198	94.00%
4 共同事業拠出金	3	3	0	100.00%
5 保健事業費	77,361	76,644	▲717	99.07%
6 基金積立金	11	110	99	1000.00%
7 諸支出金	15,220	20,220	5,000	132.85%
8 予備費	10,000	10,000	0	100.00%
合計	7,464,610	7,385,689	▲78,921	

人件費、事務費等です。税制改正に伴うシステム改修が必要となること等により増額しています。

医療費等の給付金です。被保険者数は減少していますが、高額療養費の増加がみこまれるため増額しています。

県に収める納付金です。医療費の減少や交付金の精算などにより減少しています。

国保連と共同で行う事業のための拠出金です。

特定健診などの費用です。脳ドックの定員は増やしましたが、歯周病検診の算定人数を減らしたことにより減少しています。

基金に積立てるお金です。預金利息分を計上しています。

国や県からの交付金の精算金等です。

不測の事態が発生した時のためのお金です。

基金残高

単位:千円

年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度 (見込み)
基金残高	1,042,359	1,146,257	1,029,703	974,269

国保特別会計の貯金のようなものです。保険料の安定化や、保健事業の費用に活用しています。